

エコアクション21

環境経営レポート

【 レポートの対象期間:2023年7月～2024年6月 】

《ご挨拶》

(株)湯川工務店は創業以来、地元に着目した土木・建築業として歩んでまいりました。地元で信頼される企業を目指して邁進しております。事業活動を推進して行く中で各々の事業がいろいろな環境状態に影響を与えることを重く受け止め、この対策として環境方針を作成しその方針を元に環境活動を展開し、地球に優しい企業として環境に配慮することも企業活動の役割と捉え、環境活動を展開し約1年が経過しました。

以下、活動の結果を「環境活動レポート」として取組みをまとめましたので、活動状況をご高覧のうえ、ご指導を頂き次の環境活動に生かして行きたいと思っております。



富岡本社



安中営業所

株式会社 湯川工務店

認証登録番号 : 0011416

登録日 : 2016年8月31日

《 目 次 》

1. 経営環境方針	P-1
* 経営環境理念	
* 環境経営基本方針	
2. 事業活動の規模	P-2
3. EA21推進体制	P-3
4. 環境目標とその実績（土木部）	P-4・1
環境目標とその実績（建築部）	P-4・2
5. 環境活動の取組計画と評価	P-5
6. 環境関連法規制の遵守	P-6
7. 代表者による全体の評価と見直し	P-6

I-1、環境経営方針

経営環境理念

建設業の事業活動を通じて、全社員が地球環境の重要性を認識し自然環境に配慮した施工や資源の有効活用と環境負荷の軽減に努め、自然環境の保全活動に積極的に取り組み貢献します。また、常に地域の未来を見つめ信頼される環境活動を推進します。そして、次の世代へ伝えて行きます。

環境経営 基本方針

1. 当社の事業活動を通じて、技術的・経済的な事情を考慮し、環境に与える影響を低減するとともに循環型社会の実現に努めます。
2. エコアクション21活動を推進するにあたり、環境活動スローガンを掲げ活動をすすめます
スローガン
『社員一人ひとりが環境保全活動を推進してかけがえのない地球を守ろう』

主な環境活動目標を掲げ取り組みます。

- ① 環境活動をすすめるにあたり、環境関連法規等を遵守します。
 - ② 創意工夫等による省エネルギーにより、二酸化炭素排出量の低減のため、使用電力の低減・使用化石燃料の低減(省電力・省化石燃料)を図ります。
(日常において節電・省エネに心がける ・ ゆとり運転・安全運転を心掛ける)
 - ③ 一般廃棄物は分別・再利用を促進し、単純焼却の削減に努めます。
事業活動で発生する産業廃棄物を抑制するとともに、リサイクル率の向上に努めます。
 - ④ 水資源の有効活用のため、水使用量の節水に努めます。
 - ⑤ 環境に配慮した工事に積極的に取り組みます。
 - ⑥ 省エネルギー機器を検討し、導入を検討・促進する(例:LED照明等)
 - ⑦ 上記活動を通じて原価低減をすすめます。
3. 環境活動の継続的改善を推進するため、環境目標・環境活動を策定し取り組みます。
 4. 環境保全活動を通じ地域社会とのコミュニケーションを図り、社会貢献活動に協力します
 5. 環境に関する法規制を遵守し、環境マネジメントシステムを有効に活用する

上記基本方針を全社員に周知徹底し、自らの役割を認識させ環境活動計画を推進できるよう環境教育を進めます。

制定 : 平成 27年 10月 1日
改定 : 令和 4年 7月 1日

株式会社 湯川工務店
代表取締役 湯川 嘉昭

事業活動の規模

7-1、組織の概要

社名 株式会社 湯川工務店
代表取締役 湯川嘉昭

「全組織及び全活動範囲」

1、土木部 〒370-2452
群馬県富岡市一ノ宮1530
Tel 0274-62-2015
Fax 0274-64-3180

2、建築部 〒379-0114
群馬県安中市野殿180
Tel 027-381-3393

資本金 48,000,000円
従業員数 34名
事業内容 総合建設業
土木建築工事の施工
建設工事及び工事管理業務

対象範囲(認証・登録範囲)

株式会社湯川工務店 全組織 及び 全活動範囲
1、富岡本社(土木部)
2、安中営業所(建築部)

事業の内容

許可登録

(土)(建)(と)(石)(鋼)(ほ)(しゅ)(園)(水)
(大)(管)(防)(内)(塗)(解)
一級建築士事務所登録
群馬県知事3608号

指定建設業監理技術者資格者(有する資格)

一級土木施工管理技士	4名
二級土木施工管理技士	3名
二級管工事施工管理技士	1名
一級造園施工管理技士	1名
一級建築士	2名
二級建築士	2名
一級建築施工管理技士	3名
二級建築施工管理技士	2名
一級建設機械施工管理技士	1名

建築積算資格者 1名
群馬県知事許可(特-26)第2334号

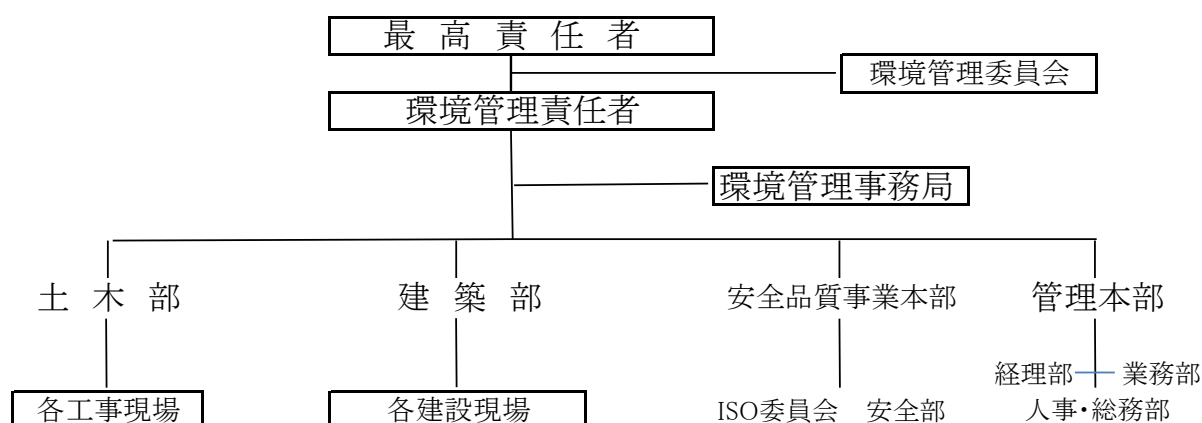
決算期 6月

資材置場 群馬県富岡市岡本1346
群馬県富岡市田篠兎沢1160-1

平成27年9月18日作成
 平成30年7月5日変更
 令和1年7月5日変更
 令和3年7月5日変更

承認	作成
湯川	金田

I-5、エコアクション21に取り組む運営組織図



職名	役割
最高責任者	【代表取締役 湯川 嘉昭】 ①環境管理責任者をはじめ、必要な責任者を任命する。該当責任者には、現在の責務に関わりなく、兼任で責任と権限を明示する。 ②エコアクション21の構築・運用・維持に必要な経営諸資源(人材・資金・機器・設備・技術・技能を含む)を準備する。 ③環境経営方針を制定する。 ④エコアクション21の構築・運用に関する情報を収集し、環境経営方針・環境目標
環境管理責任者	【湯川 嘉昭】 ①エコアクション21に関する経営諸資源の合理的・効果的な運用を図り、目的を達成するために環境管理委員会を運営する。 ②エコアクション21の構築と運用を円滑に行い、最高責任者による見直しのための情報として、構築・運用に関する情報を最高責任者に提供する。
環境管理事務局	【金田 具壽】 ①事務局として、環境管理責任者を補佐し、エコアクション21に関する実務全般を所管する。
環境管理委員会	最高責任者・環境管理責任者・事務局・部門長で構成し、6か月に1回環境管理責任者が召集する。環境目標の設定、環境活動計画の策定及び進捗管理について協議する。環境管理責任者が必要と認めた者は出席することができる。
全社員	①環境活動計画書を遵守し、実行する ②環境改善の提案を行なう ③協力会社への指導助言を行なう

環境管理委員会メンバー

最高責任者	湯川 嘉昭
環境管理責任者	湯川 嘉昭
土木部担当者	金田 具壽
建築部担当者	島津 一哉、
環境管理事務局	金田 具壽

Ⅱ-8、環境目標(計画)と実績 及び 中期目標(計画)

(1)土 木 部			基準年 令和4年度実績 令和4/7～令和5/6 (2022/7～2023/6)		今年度 令和5年度実績 令和5/7～令和6/6 (2023/7～2024/6)			令和6年目標・計画 令和6/7～令和7/6 (2024/7～2025/6)		令和7年度目標 令和7/7～令和8/6 (2025/7～2026/6)		令和8年度目標 令和8/7～令和9/6 (2026/7～2027/6)		目標に対する状況		
環 境 目 標			単 位													
①温室効果ガス排出量の削減(CO2排出量の削減)			CO2排出量	削減 目標	CO2排出量	前期比 実績	次年削減 目標	CO2排出 量	削減目 標	CO2排出 量	削減目 標	CO2排出 量	削減目 標	事務所電力によるCO2排出量は前期比72.5%低かった。これは電力消費を抑える意識の向上と1階の照明をLED化した結果である。現場電力によるCO2排出量は前期比89.7%と減少した。現場事務所の設置と利用期間の減少が影響していると思われる		
電力 1	本社事務所用 電気使用量	kg-CO2	7,448	-2%	5,400	72.5%	-2%	5,292	-2%	5,186	-1%	5,134	-1%			
電力 2	各工事現場の事務所・仮設電気使用量	kg-CO2	13,547	-2%	12,157	89.7%	-2%	11,914	-2%	11,676	-2%	11,442	-1%			
ガソリン 1	一般車両の燃料	kg-CO2	14,930	-2%	17,058	114.2%	-2%	16,716	-2%	16,382	-2%	16,054	-1%		一般車両のガソリン消費に伴うCO2排出量は前期比114.2%と多少増加した。現場ガソリンによるCO2排出量は118.1%と増加している。安全運転・ゆとり運転がされてなく運行速度超過になっていないか、また、無駄な動きはないか、見直しが必要となる。増加した原因は不明	
ガソリン 2	工事関連の燃料	kg-CO2	1,607	-2%	1,897	118.1%	-2%	1,859	-2%	1,822	-1%	1,804	-1%			
軽油 1	工用車両の燃料(ダンプ等)	kg-CO2	8,040	-2%	9,554	118.8%	-2%	9,363	-2%	9,176	-2%	8,992	-1%		一般車両の軽油消費に伴うCO2排出量は前期比118.8%で多少増加した。現場関連の活動として増加している、多少無駄な動きが発生したと思われる。現場軽油によるCO2排出量は前期比67%で大きく減少した。これは下期工事が減少したことにより、工事現場の重機関連の燃料が大きく減少したことによる。(丹生川護岸工事と西毛広域幹線道路分割6号が終了)	
軽油 2	建設現場等の燃料(重機等)	kg-CO2	99,288	-3%	66,497	67.0%	-3%	64,502	-3%	62,567	-2%	61,315	-1%			
灯油	現場事務所の暖房用燃料	kg-CO2	1,290	-1%	1,425	110.4%	-1%	1,410	-1%	1,396	-1%	1,382	-1%	現場灯油は西毛広幹道分割6号の橋台部の凍結防止養生のため、ジェットヒーターによる灯油消費が大半である。(上期90%。下期10% の割合)		
合計(エネルギー)			146,149		113,987	78%		111,057		108,205		106,125		工事完成高は前期比193%と大きく増加したが、合計エネルギー消費は下期工事が減少(重機燃料の減少)したため前期比78%と減少した。半面、前期比増加した車両の燃料消費に対して、ゆとり運転・安全運転による燃料抑制が必要である。また、環境意識の向上活動を推進しCO2排出量を抑制する		
②一般廃棄物 及び 産業廃棄物の削減			単 位	排出量	削減目 標	排出量/Kg	前期比	次年削減 目標	排出量/Kg	削減目 標	排出量/Kg	削減目 標	排出量/Kg	削減目 標	一般廃棄物の排出は変動要素が少ない 変化が無い	
一般廃棄物総排出量(事務所内の一般ごみ)			kg	351	-1%	240	68.4%	-1%	238	-1%	235	-1%	233	-1%		
産業廃棄物総排出量(工事からの廃棄物)			kg	691,690	-3%	258,370	37.4%	-3%	250,619	-3%	243,100	-3%	235,807	-3%		産業廃棄物は工事内容や受注規模により排出量は大きく変動するため、前期比対応の意味は薄れるが、下期工事完成高が減少したため大きく減少した。排出抑制の意識は継続することが必要
③水使用量水使用量及び総排出量			単 位	排出量	削減目 標	排出量/m3	前期比	次年削減 目標	排出量/m3	削減目 標	排出量/m3	目標	排出量/m3	目標	変動要素が少ない	
総排水量の削減			/m3	565	-1%	528	93%	-1%	523	-1%	517	-1%	512	-1%		
水使用量の削減			/m3	565	-1%	528	93%	-1%	523	-1%	517	-1%	512	-1%		
④化学物質使用量				化学物質の使用量は工事を下請け会社に依頼しているため使用量の把握は 難しい状況(実際の使用量は非常に少ないと思われる)						取扱い化学物質について調査継続中(SDSを取寄せ安全について確認済み)				取扱い化学物質を特定し、SDSを収集・管理する		
⑤本業に付随する目標				①地域貢献活動は建設協会の活動(2回/年)に参加している(草刈りやゴミ拾い)。また、一部工事においても地域貢献活動を実施したが、活動は不十分である。②整理整頓は現場毎に状況が異なるため、同様な整理・整頓ができていない。 ③公共事業は再生資源の利用が設計に組込まれている為、再生品の利用は進んでいると思われる。 ①地域貢献活動は、1現場に 1活動実施することを目指して取組む必要がある。②整理整頓については適宜に現場責任者が確認しすすめること。									令和5年度 二酸化炭素排出総量			
①社会地域貢献活動への取組み													土木部		113,987	
②建設現場内の整理整頓													建築部		60,186	
③再生資源材料の使用の推進と実施													合計		174,173	
令和 3/7～令和4/6 温室効果ガスの総排出量			242183kg/Co2		電気の排出係数＝0.452を適用(kg-Co2/kWh)											
令和 4/7～令和5/6 温室効果ガスの総排出量			210129kg/Co2		* 排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)の 令和3年度を利用											

Ⅱ-8、環境目標(計画)と実績 及び 中期目標(計画)

管理NoⅠ-9

542

819

(2) 建築部			基準年 令和4年度実績 令和4/7～令和5/6 (2022/7～2023/6)		今年度 令和5年度実績 令和5/7～令和6/6 (2023/7～2024/6)			令和6年度目標・計画 令和6/7～令和7/6 (2024/7～2025/6)		令和7年度目標 令和7/7～令和8/6 (2025/7～2026/6)		令和8年度目標 令和8/7～令和9/6 (2026/7～2027/6)		目標に対する状況
環 境 目 標		単 位	CO2排出量	削減目標	CO2排出量	前期比実績	次年削減目標	CO2排出量	削減目標	CO2排出量	削減目標	CO2排出量	削減目標	
①温室効果ガス排出量の削減(CO2排出量の削減)			CO2排出量	削減目標	CO2排出量	前期比実績	次年削減目標	CO2排出量	削減目標	CO2排出量	削減目標	CO2排出量	削減目標	
電力 1	安中事務所用 電気使用量	kg-CO2	11,420	-2%	10,114	88.6%	-2%	9,911	-2%	9,713	-1%	9,616	-1%	*事務所電力によるCO2排出は前期比88.6%で終了した、今後もこの状態を継続のこと。1階・2階フロアのLED化に変更することが課題となる。*現場事務所の電力消費によるCO2排出は前期比168%で終了した。現場事務所としては田篠の県営住宅 防水工事の現場事務所のみ(上期は現場事務所電力は0だった)
電力 2	各工事現場の事務所・仮設電気使用量	kg-CO2	42	-3%	71	168.8%	-2%	70	-2%	68	-2%	67	-1%	
ガソリン 1	一般車両・工事用車両の燃料	kg-CO2	34,781	-2%	23,649	68.0%	-2%	23,176	-2%	22,713	-2%	22,259	-1%	*通常ガソリンの消費に伴うCO2排出量は前期比68%で終了した、これは営業活動の減少(2名減少)に伴うものであり、決して良い状態ではないと思われる。今後、営業活動の活発化による受注増加を望む。*現場のガソリンは軽井沢現場にて使用した燃料消費によるCO2排出のみ
ガソリン 2	建設現場等の燃料	kg-CO2	0	-2%	46	#DIV/0!	-2%	45	-2%	45	-1%	44	-1%	
軽油 1	工事用車両の燃料	kg-CO2	0	-3%	20,011	#DIV/0!	-2%	19,611	-2%	19,218	-2%	18,834	-1%	*現場で使用する一般車両の燃料(ダンプ・トラック等)として再編集し直した。現場の軽油燃料としては重機・機械関連として再編集したので、個別には比較対象できないが、軽油合計値の消費に伴うCO2の排出量の前期比は145%と大きく増加している。前期と比較し工事完成高150%の増加に比例し増えたものと思われる
軽油 2	建設現場等の燃料	kg-CO2	15,503	-3%	2,577	16.6%	-2%	2,526	-2%	2,475	-2%	2,426	-1%	
灯油 1	安中事務所の暖房用燃料	kg-CO2	281	-2%	179	63.8%	-2%	176	-2%	172	-1%	170	-1%	*事務所用灯油消費によるCO2減少は消費抑制によるものと思う、*現場の灯油消費によるCO2の排出増加は前期比182%と大きく増加した。これは11月～3月に軽井沢のホテル建築現場におけるコンクリート養生による消費である
灯油 2	現場事務所の暖房用燃料	kg-CO2	1,940	-2%	3,531	182.0%	-2%	3,460	-2%	3,391	-1%	3,357	-1%	
LPG	事務所の湯沸し	kg-CO2	12.9	-1%	7.2	55.8%	-1%	7.1	-1%	7.1	-1%	7.0	-1%	*事務所の流し台に設置の湯沸器のみの使用で変動要素はない。
合計(エネルギー)			63,980		60,186	94.1%		58,982		57,803		56,780		工事完成高は前期比150%と増加したが、CO2排出量は前期比94%と減少した。これは、工事内容や工事規模により大きくエネルギー消費が変動するためであり、目標設定が難しい。日常の活動として、夏のクールビズ、冬のウォームビズ活動、などによる節電意識の向上を推進する、また、ゆとり運転等も推進し、社員の環境意識の向上活動を継続推進しCO2排出量を抑制し
②一般廃棄物 及び 産業廃棄物の削減		単 位	排出量	削減目標	排出量/Kg	前期比	次年削減目標	排出量/Kg	削減目標	排出量/Kg	削減目標	排出量/Kg	削減目標	
一般廃棄物総排出量(事務所内の一般ごみ)		kg	148	-1%	117.5	79%	-1%	116.3	-1%	115.2	-1%	114.0	1%	変動要素が少ない
産業廃棄物総排出量(工事からの廃棄物)		kg	425,446	-2%	174,518	41%	-2%	171,028	-2%	167,607	-2%	164,255	-2%	産業廃棄物は工事内容や受注規模により排出量は大きく変動するため、前期比対応の意味がないが、資材梱包材等は下請け業者に持帰りを依頼することが必要、前期比の工事完成高は増加したが、産業廃棄物は大きく減少した
産業廃棄物(特別管理)総排出量		kg	0		0	#DIV/0!		-----		-----				
③水使用量水使用量及び総排出量		単 位	排出量	削減目標	排出量/m3	前期比	次年削減目標	排出量/m3	削減目標	排出量/m3	削減目標	排出量/m3	削減目標	
総排水量の削減		/m3	216	-1%	153	70.8%	-1%	151	-1%	150	-1%	148	-1%	前期比70.8%と減少している原因調査
水使用量の削減		/m3	216	-1%	153	70.8%	-1%	151	-1%	150	-1%	148	-1%	前期比70.8%と減少している原因調査
④化学物質使用量			化学物質の使用量は工事を下請け会社に依頼しているため使用量の把握は 難しい状況(実際の使用量は非常に少ないと思われる)						取扱い化学物質について調査継続中(SDSを取寄せ安全について確認済み)		取扱い化学物質を特定し、SDSを収集・管理する			
⑤本業に付随する目標			①地域貢献活動は各建設現場毎に行うよう指導・実践を行う。また、実際の活動は不十分									令和5年度 二酸化炭素排出総量		
①社会地域貢献活動への取組み			②整理整頓は現場毎に状況が異なる									土木部	113,987	
②建設現場内の整理整頓			③建築物材料は再製品の利用は困難									建築部	60,186	
③再生資源材料の使用の推進と実施			①地域貢献活動は、1現場に1活動実施することを目標として取組む必要がある。②整理整頓については適宜に現場責任者が確認しすすめること。									合計	174,173	
令和 3/7～令和4/6 温室効果ガスの総排出量		242183kg/Co2		電気の排出係数=0.452を適用(kg-Co2/kWh)										
令和 4/7～令和5/6 温室効果ガスの総排出量		210129kg/Co2		* 排出係数は東京電力エナジーパートナー(株)の 令和3年度を利用										

5. 環境活動計画の取組みと評価と次年度の取組

* 令和4年7月～令和5年6月まで1年間の活動と取組みを評価をしております。

環境活動計画	環境活動計画の取組結果とその評価
1. 二酸化炭素排出量の削減 ① 空調温度適正化と照明不要場所の消灯 事務所関係の照明のLED化を推進する ② エアコン保守点検と清掃による負荷の軽減 ③ 社有車両の点検・整備及びエコドライブの推進 ④ 現場における建設車両の適正運転(燃費改善) ⑤ 消費電力の低減・燃料の低減を図り、CO2排出量の削減と原価の低下を実現させる。	環境目標に対する活動結果として、土木部のCO2の排出は前期比78%と減少した。建築部は 94%と減少した。土木部は工事完成高が前期比193%と大きく増加(富岡市テニス場の下請工事)した。その他の工事現場における電力・燃料消費も少なくCO2排出量は前期比78%と減少した。(下期の公共工事完成高の減少に伴うものである)。建築部は工事完成高が前期比159%と増加したが、CO2総排出量は前期比94%と減少したが、現場でのCO2排出量は前期比145%と増加した。土木部・建築部ともに工事完成高と連動していない。これは工事内容や工事規模によって大きく左右された結果である。土木部、建築部ともにCO2削減に向けて環境を意識した活動は実施した。全体的な活動として①冬季はウォームビス・夏季はクールビス活動を取り入れ空調温度の適正化と表示を徹底した。②エコドライブは意識の高揚を図る掲示を車輦内に掲示した。また、安全運転と ゆとり運転を推奨しCO2削減を推奨した。③事務所の照明は不要な場所は消灯など実施し二酸化炭素削減に向けて啓蒙活動等を継続したが、照明のLED化の推進が必要である。建設業のCO2削減計画は工事内容や規模によりCO2排出量が大きく変動するため工事完成高に 比例しないため、将来の削減計画作成が困難な点を踏まえ、(各期)毎のCO2排出量を把握し、削減目標を設定した。 次年度の取組内容 年間の活動結果を確認して次年度の取組内容を確認と目標を掲示し、環境意識をさらに促進させ目標の達成を目指す。今後、省力化機器等の検討・導入も必要となってくる。また、建設重機の 影響を大きく受けるので効率の良い運転を目指す。このCO2削減は環境意識の高揚継続が最も 必要な要素であるため、この環境保全活動を通して、コスト低減の推進を連動させたい。
2. 廃棄物排出量の削減 ① 分別ルールの徹底 ② 廃棄物置場の整備 ③ 産廃業者との契約書の確認 ④ 裏紙使用ルールの徹底	一般ごみは分別表示し市の収集に搬出、産業廃棄物は分別を明確にして搬出した。土木部の 工事廃棄物は前期比の37%となり大きく減少した。これは、下期公共工事の減少に伴うものである。この産業廃棄物は100%リサイクルしている。建築部の産業廃棄物は前期比41%と大きく減少した。廃棄物処分の適正化を図るため廃棄物業者との契約は重要である。産業廃棄物は工事の 内容や下請関係等により工事量に準じた廃棄量と比例せず、廃棄数量の把握が困難となることが ある。一般用紙の節約はミスコピーの防止や裏紙等の再利用について継続をおこなっている。 次年度の取組内容 令和5年6月までの活動結果を確認し、廃棄物の分別とリサイクルを継続し廃棄物の量を削減させてゆく。産業廃棄物は工事規模・内容により大きく変動する要素があるので、計画の策定を慎重に進める。
3. 水資源投入量の削減 ① 毎月のメータの確認(漏水防止) ② 節水表示(洗面台・手洗場・トイレ) ③ トイレの節水	水道の蛇口近辺に節水表示を貼付し啓蒙活動を継続中である。事務所の水使用量は大きな変動要素がなく、社員の節水意識に委ねるところが多い。節水意識の維持継続をすすめる。 次年度の取組内容 令和6年6月までの活動結果を確認し、次年度の取組内容は決るが、節水の啓蒙活動を継続する。
5. 化学物質取扱及び管理の徹底 ① 取扱商品の把握 ② 取扱商品一覧表の作成	建築・土木現場において使用されている主要な溶剤等の確認をおこない、その溶剤のSDSを取寄せ安全性が確認できた。(弊社では化学物質等の管理は下請会社に委ねているため、その調査も含め完了した) 特別新しい化学物質は採用されていない。 次年度の取組内容 使用化学物質について、継続的に把握し管理する。
6. 本業に付随する目標 ① 社会地域貢献活動への取組み ② 建設現場内の整理整頓 ③ 再生資源材料の使用の推進と実施	①地域貢献活動は一部工事において見られたが十分とは言えない。貢献活動の不足が見られる。②整理整頓は現場毎に異なるが結果は今一歩である。③公共事業は再生資源の利用が設計に組込まれているため再生品の利用は進んでいる。民間工事のリサイクルは処分を下請けに依頼しているところが多く不透明な部分があった。 次年度の取組内容 ①1現場に1活動実施することを目標に決めて取組む。②整理整頓は現場の安全対策の中に織込み活動をすすめる。③土木部は設計の中に織込まれている。建築部は再生資源の活用を調査し対応する。

6. 環境関連法規制の遵守

1. 当社に適用となる主な環境関連法規

2024/7/31 確認

法規制等の名称	遵守事項	遵守状況
廃棄物処理法	委託基準(契約書・許可証)、マニフェスト交付・保存及び交付状況報告	遵法
労働安全衛生法	解体作業に伴う石綿の飛散防止と適切な囲い込み防止と運搬	遵法
建設リサイクル法	建設廃材(土砂・コンクリートの塊・アスファルト・コンクリートの塊、木材)についてはマニフェスト管理にて対応	遵法
大気汚染防止法	建設機械・重機の排気ガスの対応（工事指定された基準に沿った機械を使用）	遵法
建築基準法	法律に遵守	遵法
騒音規制法	届出対象外だが騒音に配慮して工事を進めた	遵法
振動規制法	届出対象外だが振動に配慮して工事を進めた	遵法
フロン排出抑制法	法律に遵守	遵法
浄化槽法	法律に遵守	遵法
富岡市・甘楽町における土砂埋立条例	対象物件はなかったが状況を注視した	遵法

2. 環境関連法規への違反、訴訟等の有無

2023年7月～2024年6月の1年間、上記関連法規の遵守状況の確認において、
2024年6月30日現在、環境に関する違反と訴訟はありませんでした。

7. 代表者による全体の評価と見直し

環境活動計画に基づいて全社員が行動できるように啓蒙活動とエコアクション21の年間計画を掲示した。 工事完成高は前期比で土木部193%、建築部151%で終了した。 この結果の中でCO2排出量は土木部(前期比84%)・建築部(前期比94%)ともに減少した。目標達成に向け各種活動を実行したが、工事の種類・規模・内容により大きく変動要因が含まれており、コントロールが難しく目標達成することはできたが計画の通りには遂行できなかった。しかし、環境活動に対して少しでも改善要素があればその要素に対する改善を社員に周知と啓蒙活動を行いコストダウンにもつなげたい。今後も目標達成に向け活動を実行する。CO2排出量や産業廃棄物の排出は工事内容や規模により大きく変動する要素があるので、計画作成が難しいところがある。

地域貢献等の活動については、1 現場 1 活動を目標に活動を進める。
全体的にエコアクション21に取り組んだ活動は当社における財産になったと思われる。 今後はCo2排出抑制が経営コストの削減に繋がることを念頭に、環境活動と経営方針を合体させることとする。

例として、今後、CO2排出量の削減に効果のあるLED照明機器等の導入検討することも必要となる。
また、効率の良い建設機械の使用や導入を検討する。

環境経営方針・環境経営目標・環境活動計画に従来の考え方を反映させ更なる発展をするものとするが、年次によって変化する状況を把握し、その状況を活動に反映させるものとする。

代表取締役 湯川 嘉昭